

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている				
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	それ以外	・来客数は増えてきた。特に今月はバーゲンの時期であったため、客の動きが良かった。ただ、単価は大きく下がっており、その分を何とか来客数の増加でカバーしている。今後も来客数の増加が続くかについては非常に不安である。また、一部の高額品の売上が少し減ってきた。	
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・部門によっては復調の兆しが見えてきている。食品は依然として堅調だが、さらに今月は高級婦人服、宝飾品、特選ブランドが前年を上回り、高額品の動きが良くなってきている。	
		百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・セールが始まったため、来客数は健闘している。過去のようにセールでなければ買うという購買傾向はないものの、欲しいものが妥当な価格であれば買うようになってきており、堅実ながらも購買意欲は改善している。	
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品は、青果物の価格下落幅が大きくなっているが、全体的には変わらない。衣服・住関連は若干上向きである。高額品は依然として動きが悪い。	
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・引き続きエコポイント制度の後押しで、高単価のテレビ、冷蔵庫が好調である。	
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・決算時期を迎える前の初売りセールなので、来客数が多い。	
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・例年1月は一番悪い月にもかかわらず、動きはそこそこであった。特に11、12月に比べると都心の動きは活発になっている。	
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・来客数の前年比伸び率は月ごとに増えており、景気は徐々に回復している。	
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・昨年4月に介護報酬のアップ改定があり、同業他社も含め業績が回復し、黒字化する企業が増加している。	
	変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の購買意欲は相変わらず低下している。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・客は、買いたい気持ちはあるが、実際買うには至らず、買えないという状況である。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・景気は低迷しているが、世間で言われている2番底という印象はまだないので、悪いながらも現状維持である。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・年始商戦は、郊外大型店では元日より営業したため、かなりの集客があり、福袋の販売も順調との報道がなされていたが、中心街の百貨店・商店街は2日からの営業が多く、出遅れていた。当店は客単価が上がり、今月上旬までは前年実績を上回っていたが、中旬以降、客足が鈍化した。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・年末商戦の後で、まとめ買いや歳暮の頂き物があるのか、今月の売上は落ちている。来客はあっても客は少量買いで、その月にいる分のみ購入し、単価も低い。毎月同量程度の仕入れはしているため、結局在庫を抱えている。繁華街に出ると客足の多さに圧倒され、その場では相当なお金も動いているため、単に当店のような小売店の客足が遠退しているのかと考えさせられる。	
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・客は必要のない物は価格が安くても買わない。先日ギフト解体セールを開催し、売上は前年を超えることができたが、前年より持ち帰りする客が多く、少しの金額でも配送料を節約する客が増えた。これも客が必要のない金を使わない傾向の証左である。	

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・初商いの来店と買上単価は前年割れとなったが、レジ客数と福袋は好調であった。月間でも同様の傾向である。また催事でも、夢やお得感のある催事や、手軽に旅行気分が味わえる物産催事は好調であるが、呉服や価格訴求型の催事は不振である。欲しいものを必要なとき必要な数購入する慎重な姿勢が続いている。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・初売りでは、福袋を中心に前年を超えて推移したものの、クリアランス商材の不振のほか、宝飾品や呉服などの高額品も前年実績を大きく下回っている。食品催事を1月に移行し、動員力を強化したため、店頭売上は善戦しているものの、外商を中心とした商品が低迷している。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・冬物を値下げしても、価格に反応する客は少なく、客は必要なものだけを買っている。高額品も、支払いをクレジットで先延ばしする客が減っており、消費への慎重さは変わっていない。将来的に得するかどうかが、購買の基準になっている。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・景気低迷で客が今後の見通しがつかず、買い控えがある。
スーパー（店長）	お客様の様子	・依然として消費者の節約志向が強まる中、デフレ傾向がさらに追い打ちとなり、特に食料品等で低価格品への需要シフトが起こっている。また、他社との値下げ競争等も日々激しくなっており、収益が悪化している。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・安価な商品を求める傾向は、食料品に限らず衣料品・日用品にも相変わらずみられる。客単価がなかなか上がらない状況が続いている。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数も若干減少しているが、買上点数が減少している。また、ロープライス商品の動きが活発になっており、全体的に客単価が落ちている。高額品は欲しくても手が出ないというのが実態である。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・前年の夏以降、売上はかなり低い水準で推移し、ここ数か月は底どまりした感がある。客数は大幅減にならず、買上点数もほぼ維持しているが、1品単価が落ち込んでいる。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・コンビニは大半が目的買いであるが、客単価が非常に悪く、景気の悪さを反映している。
コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・全体の売上の前年割れは続いている。客数は前年割れであるものの、若干回復傾向である。ただし、客単価の下落が引き続き続いているので、3か月前と比較すると結果は変わらない。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・以前からの客は引き続き購入しており、売上は前年並みになった。しかし新規客の出入りが少ない状況である。
乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・土日とイベントを実施しており、最大需要期であるが、既存客の来店は以前からかわらない。新規客の来店は以前のように多くない状況である。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・自動車業界は、減税対策もあり何とか販売量は確保している。この時期は年間の最大需要期であるが、販売量は例年に比べると若干少ない。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車販売台数は、エコカー減税・補助金の後押しがあり、3か月前と同じく好調に推移している。
その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	お客様の様子	・売上は前年並みである。店舗を移転したため、新規の客の来店がある一方、来店が減少する客もいる。
その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は現在の価格で安定推移しているが、12月の賞与支給は厳しかったとの声が多く聞かれた。12月は新年を迎える準備として、車にかかる支出が例年並みであったが、1月に入ってから節約指向がうかがえる。
その他小売の動向を把握できる者【土産卸売】（従業員）	来客数の動き	・商品の売行きが悪い。年始の4～5日は良かったが、それ以降は上向かない。前年比85%程度の販売量で、空港内の他の売店も同じような状況である。
観光ホテル（総務担当）	販売量の動き	・婚礼部門など、一部上向きの部門もあるが、宿泊、レストランなどますます厳しい部門もあり、全体では変わらない。

	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・学生を中心に少し動きが出てきたが、価格志向が強く、安い商品しか売れない。数社の商品を比較して購入する傾向がますます強くなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・新年会が全くなく、繁華街は閑古鳥が鳴いていて、成人式も思ったより客の動きがなかった。
	通信会社（業務担当）	単価の動き	・今月は携帯電話の旧モデルの販売単価が下落したため、年始より販売が好調であった。ただし、低価格商品の比率が高く、高額商品の販売台数は低迷している。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・法人の客からの携帯電話の申込がほとんどない。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・観光地である当地は、県外客が右肩下がりでそのため、当ゴルフ場も厳しい状況で、来客数は3年前の半分、2年前より3割下落している。ゴルフを問わず観光客は激減している。そのなかでもマラソン大会や歩くイベントは増えつつあるので、全体的には健康志向であるが、娯楽に関する支出は削られている。
	美容室（店長）	来客数の動き	・成人式で来客数は多かったが、他の日は3か月前に比べると変わりがない。天候に左右されている。
	音楽教室	来客数の動き	・習い事は景気には全く左右されない傾向にあり、むしろ景気が悪くなればなるほど、子供には教養を見につけさせたい親が増えている。在籍数は毎年増加しており、3～4年前に比べると100人以上増えた。これから春の生徒募集が始まるので、この数か月で一気に増えるが、転勤などで辞めていく生徒もいるので、大きな変化はみられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数はあまり変わらないが、客は年末年始で金を使い、卒入学、就職と今後もお金を使うことを想定しているからか、買物を控えている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街に来る客が減り、販売単価も下がっており、大変厳しい状況が続いている。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・年明けは時化のため魚も少ないが客も少ない。例年悪い時期ではあるが、今年は特にひどい。
	一般小売店〔精肉〕（店員）	お客様の様子	・客が外食を控えているため、当店の顧客である飲食店の発注量の減少や閉店が続いている。またデフレの印象のためか、単価の安い方に客が流れている。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・キーテナントの業績悪化の報道により、ブランド、テナントの取引状況が悪化している。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・売上規模の大きい初売りが思ったより伸びなかった。セールを12月に前倒ししているため、1月は厳しい月となった。
	百貨店（企画）	販売量の動き	・新年を迎えたが、販売量は前年比10%程度減で推移している。長引く不況の影響で顧客の可処分所得及び貯蓄が減少し、生活防衛のための低価格志向がますます強くなっている。セールには敏感に反応するものの、通常商品の動きが鈍い状況が続いている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・年明けは食料品を中心に前年比89%と悪く、ますます買い控えが進んでいる。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上量、単価ともに縮小状況にある。必要なもの以外に向ける目が一段と厳しくなっているのに加えて、必要なものでも価格の選別によりシビアな目を向ける傾向が強い。
	スーパー（店長）	単価の動き	・買上単価が前年比92～93%となっているほか、客数もほぼ同じくらい落ち込んでおり、なかなか客数と客単価が上がってこない。買上点数だけがかなり上がっている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・年末年始の状況は、来客数は前年並を維持しているが、客単価は前年比7%ほど低下している。正月明けからの動向も、安くてなお必要商材の買上点数は多少上昇しているが、節約志向は緩んでいない。単価下落傾向さらには続いている。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今月は例年よりも冷え込む日が多く、冬物商材を中心に販売強化をしたが、それ以上に消費者のディスカウントストアやドラッグストアへの流出が大きい。来店客も買い控え傾向が強く、苦戦している。
	コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・インフルエンザの流行、降灰による来客数の減少や競合店出店で厳しい状況が続く、売上は大きく鈍化している。

	衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・正月休みが短かったせいで、セール始めの売上が伸びなかった。いつもはかなりのまとめ買いをする客が、抑えた買い方をしていた。ボーナスが減らされたという声が多く聞かれた。
	家電量販店 (店員)	販売量の動き	・12月売上増の反動が出て、エコポイント対象商品であるテレビでも息切れしていると感じる月であった。
	住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・年末年始・初売りが一段落し、月の後半は来客数が極端に減少した。反面、毎月のキャンペーンは久しぶりに前年同月比を上回った。
	その他専門店 [書籍] (店長)	それ以外	・アルバイトの募集2名に対して応募者が88名あり、いかに仕事の無い人が多いかを痛感させられた。仕事の無い人が多いということは消費にお金が回らなくなり、経済は停滞する。
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・前回までは非常に悪いと回答していたのが、今月はやや悪いになり、多少は良くなった。しかし、まだまだ動向をみると来客数は少ない。
	スナック (経営者)	来客数の動き	・年明けからしばらくはそこそこの来客があったものの、中旬から月末にかけてひどい落ち込みである。
	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・2月に県知事選挙があるせいか、宴席の問い合わせが鈍い。
	タクシー運転手	お客様の様子	・正月休みが短かったため人の動きが悪く、今年の正月ほどタクシーが動かなかったのは初めてである。
	タクシー運転手	来客数の動き	・前年まで2月下旬に開催された地域の観光イベントがずれたせいで、売上が落ちている。
	通信会社 (管理担当)	それ以外	・資金繰りが厳しい状態が続いている。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・個人旅行については、年末年始は横ばいで推移した。団体はやや減少したままである。
	その他サービスの動向を把握できる者 [フィットネスクラブ] (営業)	販売量の動き	・販売数及び客1人当たりの月単価が減少している。
	住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・相変わらず土地の問い合わせ等が少なく、同業他社とも景気は悪い。
悪くなっている	一般小売店 [青果] (店長)	それ以外	・年明け以降、かなり厳しい状況である。中央市場の青果物の相場は、県外向けの商品は寒さもあって高いが、地場で消費される商品は箱台も出ない状況である。
	一般小売店 [生花] (経営者)	販売量の動き	・3か月前は年末に向けて開店等の祝いの花の需要があったが、1月はこれといった大きな注文がなかった。
	百貨店 (営業担当)	競争相手の様子	・近隣商店街の空き店舗が更に増えた。また、近隣中小量販店の閉店も発生している。
	百貨店 (売場担当)	競争相手の様子	・同業の百貨店についてはどれも良くない。大型商業施設は前年実績を確保していると聞いているため、それと比較するとかなり悪い状況である。3か月前と比べると売上、来客数とも前年比約4%ポイント低下している。紳士、リビング、食料品はほぼ同じ水準で動いているのでさほど影響がないが、ヤング、ミセス、身の回り品、子供服の4つがかなり悪い。
	コンビニ (販売促進担当)	販売量の動き	・依然として予算比、前年比とも実績割れである。量販店、地域スーパー、ドラッグストアの低価格販売及び引き引き販売の継続で薄利多売型となるなか、販売数量が伸びないのが現状である。
	衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・来客数がほとんどゼロに近い日が続き、売上も前年比3割以上低下している。
	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・とにかく売れない。客が高齢化していることもあるが、物を買わない。特に衣料品を買わないことが売上の低下につながっている。
	自動車備品販売店 (従業員)	それ以外	・高速道路料金が今後どうなるかはっきり政府の方針を打ち出していないため、ETC関連商品の売上が見えない。
	ドラッグストア (部長)	来客数の動き	・3,000～5,000円の中価格帯の来客数が悪化している。

		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・当店は昔からの町の中心地にあるが、ここ何年も人通りが少なくなってきた。また新幹線の全線開業で、新幹線駅は人通りがある程度あるが、郊外型の大型店舗も増え、人はどんどんそちらに流れている。中心地に人を呼ぼうとしているが、それがなかなか実を結ばない。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・例年、新年の挨拶等でビジネスマンが来店していたが、今年はそれが一組もない。開店休業状態であり、どん底である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・先行きが見えず、客は金を使わないので、タクシー業界は被害を被っている。
企業 動向 関連	良くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の動きはここにきて急激に活発になり、特にLED関連、リードフレーム等が著しく多忙を極めている。金型関連もフル操業が続いている。大手企業間にはまだまだ格差があり、すべての面で良いという状況ではないが、あまり先行きに関しても現状からすると心配するほどのことはない。しかし、精密機械部品の動きは相変わらず低調である。
	やや良くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は一時的に仕事量が増えてきたが、それが継続的なものか単発的なものか判断は難しい。ただ、客先の状況も、以前の休みが多い状況からすれば改善傾向にある。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・環境対応型自動車の部品用生産に関連する生産設備、半導体に関連する部品加工の受注が増えつつあり、景気回復の兆しを感じる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・仕事の依頼件数や問い合わせ件数が徐々に回復してきている。
変わらない		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末は特需で若干は伸びたが、それでも例年通りの売上にはならなかった。年明けはすべて厳しい状況で、スーパー、居酒屋、加工メーカーとも予想通りここ近年にない悪い売上になりそうである。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・前年から販売単価の伸びがなく低迷している。飼料価格も依然として高いため、この状態が続けば厳しい状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前から良くなってきたが、その状態でこう着状態が続いている。
		輸送業	受注量や販売量の動き	・あまり変わっていないように感じる。受注量が増えてきても、デフレの影響で景気が回復するのか疑問である。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・全体的に荷動きが停滞したまま、あまり動いていない。
		金融業	取引先の様子	・製造業では停滞感がある。受注は輸出品を中心に上向くと考えられるが、見通しは具体化しておらず、十分な生産量には至っていない。
		金融業（調査担当）	それ以外	・3か月前に比べて企業の受注・販売の状況は改善しており、また倒産や保証協会の代位弁済額なども低位で推移している。一方、金融円滑化法の施行に伴い、返済猶予の相談・申込件数は中小・零細企業を中心に増加し、企業の資金繰りはタイトになってきている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・融資先である中小企業は、貸出金利減免等のニーズがまだまだ継続している。月々の資金繰りが厳しい状況に変わりはない。
		新聞社（広告）	受注量や販売量の動き	・正月期間中は新聞広告にとって繁忙期であるが、米国の大手金融機関の破たんの影響を受けた昨年度より2割ほど落ち込んだ。化粧品や食品など通販系は好調だが、他業種は軒並み新聞広告に消極的な状況が続いている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・コンサルティング関係の会社の話では、仕事がなく人が余っているため、人の合理化が始められている。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・感覚としては12月よりも良くなっていると感じるが、実際企業の売上等を聞くと非常に厳しいという話である。	
やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今まで景気をけん引してきた建設業、半導体事業などが低迷の様様で、全体的な景気が今のままで回復するとは思えない。	
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・繁忙期にもかかわらず、受注量が全く増えず、1年中閑散期のような。企業の新入社員募集も少ないようで、販売数量に全く結び付かない。	

	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年末年始にインテリア設計、内装業者、ゼネコンなどの得意先100社以上を回り、今年の動向を確認したが、良くなる話はただの1件もなかった。受注は年内は動かない。	
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	それ以外	・業界によっても異なるが、給与減やボーナス支給無しなどといった話を聞くため、景気は悪くなっている。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1月始めに新春見本市があったが、前年より大分悪く、その状態がずっと続いている。業界全体としては商品がいくらか動いているようだが、ギフト、高額商品がなかなか動いていない。商社の展示会にしても動きが悪く、業界として大変心配している。	
	建設業（社員）	競争相手の様子	・3月までは公共工事等が全盛期であるが、22年度への繰越工事がまだ未発注なので、3月にかけて次第に人手があふれてくる。同業者をみても、工事が完了し人手が余っている業者もいるようである。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・取引先の状況は、景気悪化に伴う受注減等もあり、今月の借入申し入れの内容の大半が、当面の運転資金確保のためというものが多かった。加えて既存の借入金の返済に窮している先からの条件変更の申し入れも出てきており、こうしたことからみても大変厳しい状況になりつつある。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・酒類メーカーは国内での売上が低迷し、海外での販路を模索している。メーカーの倒産激増の年になりそうである。	
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・21年度下期に入り、夏場の底打ち時期より若干契約は上向きになってきた。しかし、今月に入り正月休み等の影響はあるが、引合件数、金額共に大幅に減少し、受注状況もここ数か月では最低を記録している。	
	悪くなっている	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年1月は12月の反動で落ち込み、受注量、売上ともに下がるが、前年、一昨年と比べても今年はかなり少なくなっている。客の話でも、物が売れずかなり苦しんでいる。実際、問い合わせ等の電話も少なくなり、我々の帰宅も早くなっている。
		その他サービス業	取引先の様子	・市町村の土木設計や建築設計、調査、計画等の業務について請負業者へ発注される業務の数が少なくなっており、仕事自体がない状況になっている。市町村合併も落ち着いたため、合併前は各自治体で実施されていた業務が合併されて発注元がひとつにまとめられ、仕事がさらに少なくなっている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度末の需要がここにきて少し増えてきている。業種によっては人手が足りない所もあり、外部派遣を利用している企業もある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求職者数の動き	・企業の厳選採用のスタンスは継続しているが、求人数が年明けより多少増加に転じた。
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・今年に入り、事務の案件が入りつつあるものの、退職者の補充が主であるので、受注増による求人数の増加とはいえない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・1月に入り、回復基調の感じられる企業、部署では新規雇用の発注が増加傾向にある。このまま3月に向けて上向きようであれば本物であるが、現時点でそこまでは予断ならない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3月中旬にオープンする大型商業施設の求人が最終段階に入り、本来なら求人市場が活性化するはずだが、影響がみられない。特に地場企業である当社には波及効果がみられなかった。
		新聞社〔求人広告〕	求人数の動き	・求人数は依然として低迷している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・電子部品製造業と一部の業種については回復傾向がみられるが、全体的には求人の動きは厳しい状況にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が対前年同期比で毎月減少しており、回復の兆しが見られない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前2か月間は新規求人数の減少幅が縮小したが、今月はまた減少幅の拡大傾向が見られ、まだ求人意欲の高まりはない。

	学校〔大学〕 (就職担当者)	求人数の動き	・平成22年3月卒業予定者に対する求人は低調なままである。また平成23年3月卒業予定者に対する求人依頼が届いているが、採用予定数は絞り込んだままで採用規模の拡大を予定している求人はあまり見当たらない。
	学校〔専門学校〕 (就職担当)	雇用形態の様子	・国による緊急雇用対策実施の影響もあり、非正規社員の求人が多く目立ち、正規社員が少ない。
やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・受注件数は相変わらず伸び悩んでいるが、特に減少しているわけではない。しかし、回収や価格交渉については厳しくなっている。今まで一切価格交渉がなかった大手取引先からも、値引き要請が入ったり、経費削減により今まで請求できていた交通費が削減となったりしている。
	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	雇用形態の様子	・新聞の求人広告の傾向として、今年に入り病院の求人募集が減った。病院の経費削減が要因だと思われる。また、新聞の求人広告自体が減っているのは、職安への依存が高いせいもあるとみられる。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・12月の新規求人数は11月と比べ2.6%減少した。また、10月比25.9%減少、9月比18.6%減少である。月間有効求職者数もほぼ同じ傾向であり、景気の状態が求人数に表れている。
悪くなっている	民間職業紹介機関(社員)	求人数の動き	・派遣終了の話が途切れなくつづいている。いまだに契約終了の話の底が見えてこない。顧客からも増員の話はない状況である。
	民間職業紹介機関(支店長)	それ以外	・労働者派遣法改正の動きにより市場が縮小し続けている。